



続く、笑顔の、幸せの連鎖一。

男女共同参画という言葉は、なんとなく難しく感じてしまいます。何をしたら良いかも分からずに、何もできていないような気持ちになるかもしれません。

しかし、男女共同参画を推進することが目的ではないのです。「一人一人が自分らしく生きる」ことが目的であり、あくまでも男女共同参画は手段なのです。

自分らしく生きることはさまざまです。子どもに対する愛情を注ぐことでも良いですし、仕事を頑張ることで、趣味を極めることでも何でも構いません。自分で選択した人生を歩むことができる社会が男女共同参画社会です。

3月27日、大津中央公園で行われた「あそびのひろばイベント」。会場で笑顔でイベントを満喫する、橋口浩平さん、理恵さんとめいちゃんの家族がいました。平日に行われたこのイベントに家族全員で参加した理由を聞いてみると、「たまたま今日が休みだったからです」と浩平さんは話します。無理をせず、家族との時間を楽しんでいる様子が伝わりました。

幸せは、バランスをとるシーソーのようなもの。お互いがシーソーに乗ってバランスを取らないと動きません。どちらかに傾いたままになってしまいます。男性と女性のどちらかが行動するだけでは、変化は起きないのです。

相手のことを考えた行動は相手の心に伝わります。それが相手の行動につながり、さらなる自分の行動につながります。そんな幸せの連鎖が続いていけば、大津の未来は明るいでしょう。

特集 幸せのバランス 終



おがたようこ
緒方洋子さん
NPO法人チェンジライフ熊本理事長

元くまもと県民交流館パレオ館長
熊本大学男女共同参画コーディネーター
(平成18年～21年)や内閣府・男女共同参画推進連携会議議員(平成17年～19年)などを歴任。

参加ではなく参画

男女共同参画社会とは、男女の持てる力を発揮できる社会です。「参加」ではなく「参画」というところが大事な点です。男性も女性もお互いの意見を施策などに反映させることが大事です。

難しく考えなうでー

期待する「2020年30%」の目標を、計画の中に策定しました。

が、難しくはないのです。より良い家庭を築いていくためにあるものです。互いに権利を主張し合うのも、男性も女性も自分らしく生きることができれば、自然と家庭も円満になりますし、子どもも健やかに育つことができるのです。

男のため、女のため

男女共同参画は、女性のためだけにあるわけではありません。全ての人間に必要なことなんです。現在、男性に対する社会的責任が大きいことから考えると、むしろ男性のための男女共同参画なのかもしれません。

今までは、いろいろなことに対して男性が決定権を持っていた。しかし、女性の意見も入らないとこれからの世の中は良くなくなっていきます。せめて3割は入らないといけないのではないかと考え、国は2020年までに、指導的地位に女性が占める割合を、30%程度になるように

より良い家庭のため

「男女共同参画」というと難しく感じるかもしれませんが

なぜ今までのやり方では駄目なのかという時代が変わったからです。時代の変化に合わせていかないといろいろなことが行き詰まります。無理をしなくても良いのです。背伸びをする必要もありません。自分の力を発揮していくことが自分らしくさな

とにたく、家庭が一番大事です。昔から人々の暮らしは男女でつくられています。経済でも衣食住でも、両方に軸足を置くことが必要だと思います。それが自分たちを輝かせ、未来の子どもたちのためになると思います。

が慣習によって「自分らしく生きる」ことができない世の中だから男女共同参画社会が必要ですし、そのためのワーク・ライフ・バランスなのです。仕事と生活を調和することで、男女が一緒に家庭を支えていくことができます。

男も女もつらい

女性は、出産や育児をするときに仕事を中断しないとい

けない時期があります。しかし、継続の中にしかキャリアは生まれません。子どもを産み、育てることは、20代、40代の時期に継続して仕事ができないことです。男性は継続して仕事を続けることができますが、女性はそうはいかないのです。

男性は逆に責任感の重さが負担になることがあります。年間3万人を超える自殺者も

7割が男性です。経済的な責任感が男性に負担を強いているのです。

この2つの問題は、男女共同参画の考えが浸透していくことで解決できると思っています。お互いに支え合うことは、自分を支えることにもなるのですからね。

家族のためにー

そして大津

の未来を

画こう

5

男女共同参画